都道府県名	福　　島　　県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	いわき市立平第三小学校								
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数
学級数	５	４	４	３	４	３	２	２５	３１
児童数	１２１	１１８	１３５	１０８	１３０	１０６	１０	７２８	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

個に応じた指導を通して、確かな学力を身に付けさせるための学習指導の在り方
１．個に応じた指導のための指導方法・指導体制の在り方
２．教師の得意分野を生かした教科担任制の在り方

２．研究内容と方法

(1)　実施学年・教科

少人数学級	
１年生算数 ２年生算数	子どもの理解度に差が出やすい教科であり、発達段階をふまえて少人数での指導を行い、個に応じた指導の展開を図るため

学級内Ｔ．Ｔによる指導	
３年生算数	子どもの理解度に差が出やすい教科であり、その後の基礎となる内容を学習する学年であるため

少人数グループ編成における指導	
４年生算数 ５年生算数 ６年生算数	子どもの理解度に差が出やすい教科であり、個に応じたきめ細かな指導を行い、確かな学力を身に付けさせたいと考えたため

教科担任制による授業	
４年生社会・理科・音楽・体育 ５年生社会・理科・音楽・家庭・体育 ６年生社会・理科・音楽・家庭・体育	教師の得意分野を生かした授業を展開し、児童の意欲・関心を高めながら「わかる授業・できる授業」を推進するため

特殊学級における個に応じた指導	
１・３・４年生生活単元 ４・５・６年生算数	特殊学級における個に応じた指導を通して、個に応じた確かな学力を身に付けさせたいと考えたため

(2)　年次ごとの計画

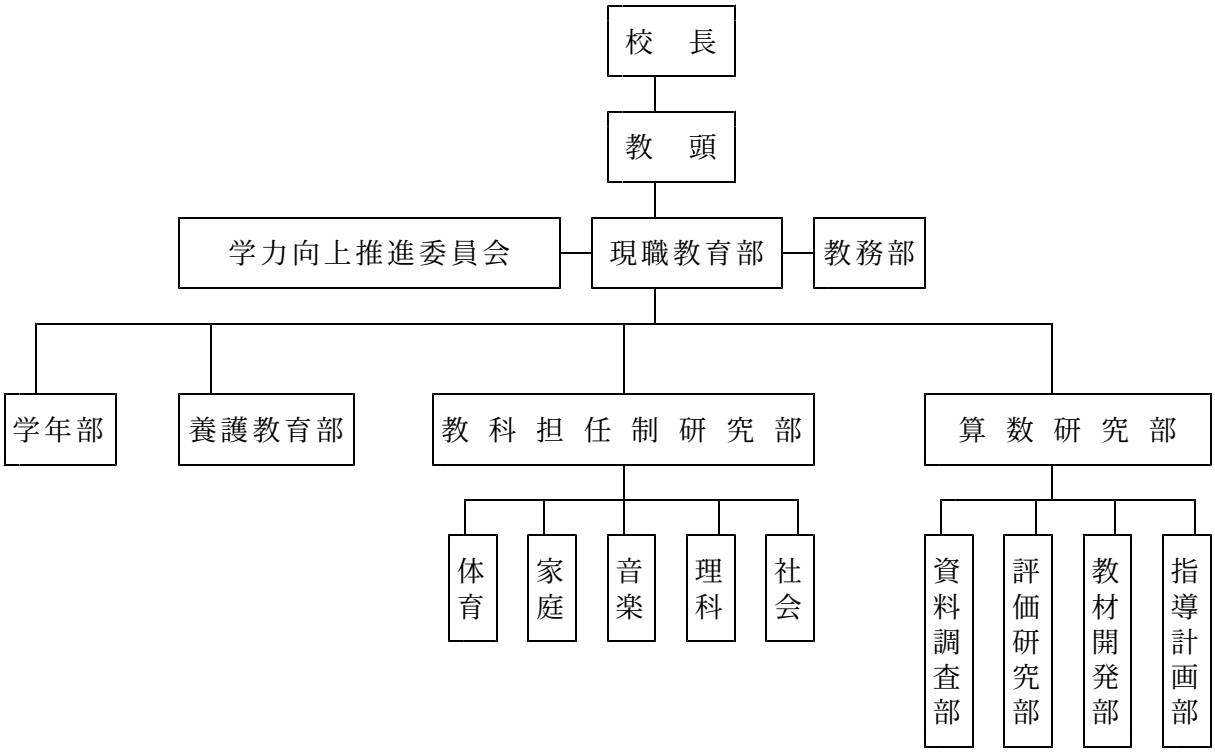
平成14年度	○　テーマ 　個に応じた指導を通して、確かな学力を身に付けさせるための学習指導の在り方 ○　研究の見通し（仮説） 　子どもの理解度や学力、習熟の程度などを的確に把握し、実態に応じた指導を展開するために、指導方法・指導体制を工夫・改善するとともに、教師の得意分野を生かした分かりやすい授業を推進すれば、一人一人に確かな学力を身に付けさせることができるであろう。 ○　研究の内容・方法 ①　少人数グループ編成による指導及び学級内Ｔ．Ｔによる指導（算数科） ・　少人数グループ編成による指導の在り方と学級内Ｔ．Ｔによる指導の在り方の研究 ・　学習のきまりと進め方の研究 ・　補充・発展的指導の在り方の研究（教材の開発・問題の作成） ・　評価の在り方の研究（達成基準の作成、チェックリストの活用など） ・　指導体制の在り方 ②教科担任制による授業と指導体制の研究－教科担任制の在り方－ ・　教師の得意分野を生かした「わかる授業・できる授業」の推進 ・　学習教材の研究 ・　評価の在り方の研究（達成基準の作成、自己評価カードの活用など）

平成15年度	○　テーマ 　個に応じた指導を通して、確かな学力を身に付けさせるための学習指導の在り方 ○　研究の見通し（仮説） 　子どもの理解度や学力、習熟の程度などを的確に把握し、実態に応じた指導を展開するために、指導方法・指導体制を工夫・改善するとともに、教師の得意分野を生かした分かりやすい授業を推進すれば、一人一人に確かな学力を身に付けさせることができるであろう。 ○　研究の内容・方法 ①　少人数グループ編成による指導及び学級内Ｔ．Ｔによる指導（算数科） ・　少人数グループ編成による指導の在り方と学級内Ｔ．Ｔによる指導の在り方の研究 ・　補充・発展的指導の在り方の研究（教材の開発・問題の作成） ・　評価の在り方の研究（達成基準の見直し、チェックテストの活用など） ・　指導体制の在り方 ②教科担任制による授業と指導体制の研究－教科担任制の在り方－ ・　教師の得意分野を生かした「わかる授業・できる授業」の推進 ・　学習教材の研究 ・　評価の在り方の研究（達成基準の作成、相互評価の活用など）

平成16	○　テーマ 　個に応じた指導を通して、確かな学力を身に付けさせるための学習指導の在り方 ○　研究の見通し（仮説） 　子どもの理解度や学力、習熟の程度などを的確に把握し、実態に応じた指導を展開するために、指導方法・指導体制を工夫・改善するとともに、教師の得意分野を生かした分かりやすい授業を推進すれば、一人一人に確かな学力を身に付けさせることができるであろう。 ○　研究の内容・方法 ①　少人数グループ編成による指導及び学級内Ｔ．Ｔによる指導（算数科）

年度	・　少人数グループ編成による指導の在り方と学級内Ｔ．Ｔによる指導の在り方の研究 ・　補充・発展的指導の在り方の研究 ・　評価の在り方の研究 ・　指導体制の在り方 ②　教科担任制による授業と指導体制の研究－教科担任制の在り方－ ・　教師の得意分野を生かした「わかる授業・できる授業」の推進 ・　学習教材の研究 ・　評価の在り方の研究

(3)　研究推進体制



※　国語は、各教科の基礎・基本となっているので、国語の力がつくよう、国語部を中心に、各担任が研究を進めていく。
※　教科担任制研究部は教師の得意分野を生かして構成しているため、今年度は上記の教科で構成した。
※　今年度は、特殊学級における個に応じた指導の研究も進めるため、養護教育部を設置した。

現　職　教　育　部
○現職教育推進 ○研究計画の企画・立案 ○年間計画の作成 ○現職教育通信の発行（教員向け：現職教育だより 保護者・地域向け：フロンティアスクール通信）

学　力　向　上　推　進　委　員　会			
ＰＴＡ会長	隣接中学校長	学校評議員	各専門機関関係者

算　数　研　究　部			
指導計画部	教材開発部	評価研究部	資料調査部
○達成基準の作成 ○教材選定 ○学習の進め方の検討 ○カリキュラム構造の検討 ○Ｈ１５年度年間指導計画の作成 ○教育課程の検討	○自作教材の開発・検討 ・補充的な学習用の問題 ・発展的な学習用の問題	○自己評価の在り方の検討 ○レディネステストの検討 ○学力テストの結果からの課題の検討 ○評価の在り方の研究	○研究推進校の資料の収集 ○全体会記録一切 ○実践記録（ビデオ・写真撮影を含む） ○資料・記録の管理 ○算数コーナーの設置と内容の検討

教　科　担　任　制　研　究　部				
社　会	理　科	音　楽	家　庭	体　育
○教科担任制の在り方の研究 ・教師の得意分野を生かした「わかる授業・できる授業」の推進 ・学習教材の研究 ・指導計画及び達成基準の作成 ・自己評価及び相互評価の在り方の検討 ○教科担任制導入の成果と課題についての検討				

養　護　教　育　部
○特殊学級における個に応じた指導の在り方の研究 ・個別の指導計画の作成及び評価の検討など ○特殊学級における確かな学力についての研究

学　年　部						
１　年	２　年	３　年	４　年	５　年	６　年	特殊学級
○学習の進め方の研究 ○指導案の作成						

Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

○　算数科での学力の変容

５学年の例として、昨年度２月に行ったＮＲＴの学力テストの結果と今年度の各単元末のテストの結果を偏差値で比べると、昨年度他の領域と比べ大きく落ち込んでいた「数と計算」の領域の偏差値が５１．４と大幅に向上した。向上が見られた要因としては、繰り返し学習による補充をだけでなく、問題解決の場面で既習事項を活用することにより、よりよく身に付けることができたと考える。また、今年度から設定した「学力向上タイム」も効果があったものと考えられる。

○　少人数グループにおける指導及び学級内Ｔ．Ｔによる指導

ア　３学年は週４時間学級内Ｔ．Ｔによる指導を行っている。「かけ算のしかたを考えよう」の学習内容については、単元の終末に課題別コース学習を取り入れ、少人数指導を行い、個に応じた指導を行った。その結果、レディネステストでは９３．８％だったＡ及びＢ判定の児童が単元終了後は１００％になった。コース別学習の成果が現れたものと考えられる。

イ　４・５・６学年は日常的に少人数グループにおける指導を行い、単元によっては、単元の終末に児童が自分の課題に応じたコースを選択するコース別学習も取り入れている。例えば「面積の求め方を考えよう」の単元の結果をみると、レディネステストでは２１．４％だったＡ判定児童は単元終了後４０．８％に増えた。単元終了後のＡ及びＢ判定の児童の割合は、９４．６％になった。コース別学習に入る前の状況では、Ａ及びＢ判定の児童の割合は、８９．１％であった。コース別学習では、知識や技能だけでなく、知識や技能を働かせ、数学的な考え方ができるようコース別に展開を工夫した授業を実施した成果であると考える。

・教科担任制による授業

ア　６学年は、昨年度より継続して教科担任制による授業に取り組んでいる。その社会科では、歴史的事象について、正しく事実を捉え、それについて考えることで、歴史的認識を深めることができるよう、多様な情報を客観的・総合的に捉え、判断できるよう一人一人に応じた課題をもとに考えさせるよう指導してきた。その結果、具体的な単元での児童の変容を見てみると「新しい日本　平和な日本へ」では、単元の終了時には「関心・意欲・態度及び資料活用の技能・表現」について、達成基準に照らしてみると、１００％の児童がクリアすることができた。また、「社会的な思考・判断及び知識・理解」においては、９４．４％の児童が達成基準をクリアすることができた。

イ　６学年の理科では、社会科と同じく昨年度より教科担任制の授業に取り組んでいる。問題解決的な学習の仕方が身に付き、思考しながら実験や観察を行うことができるようになってきている。今年度も、条件制御できる実験計画カードや地域の教材開発やものづくりの場の設定など、学習意欲を高める手立ての工夫に取り組んできた。具体的な単元での児童の変容を見てみると「水よう液の性質とはたらき」では、導入時に本単元につながる実験ゲームを行い児童が興味・関心を持って学習に取り組めるようにした。また、身近な水溶液を子ども自らに持参させることも行った。さらに、グループ学習で実験に意欲的取り組めるように教具の工夫や話し合いの場の設定を行った。発展的な学習としては、学習したことが実生活の中で実感できるような場の設定を行った。その結果、児童の興味・関心が高まり、知識・理解に関する内容についても、単元終了時には、達成基準に照らして、１００％の児童がクリアすることができた。

　このように学習意欲を高めるためには、「問題を発見する力」「見通す力」「発展する知識・理解」「科学的な見方や考え方」「生活に生かす力」などの力が必要であると考える。

２．今後の課題

・少人数グループにおける指導及び学級内Ｔ．Ｔによる指導（算数科）

ア　上位児に対して、発展的な学習の指導の実践や教材の収集・開発に取り組んできたが、さらに指導の工夫や教材の開発に努めていく必要がある。

イ　Ｃ判定のまま単元を終えてしまう児童がまだ見られるので、個別に指導を行っているが（休み時間や放課後など）、通常の授業で達成できるようさらにきめ細やかな指導の充実を図っていく必要がある。

ウ　より個に応じた指導を展開するために、教材研究を深めたり、系統性や基礎・基本のさらなる洗い出しなどを図ったりしながら、授業の質の向上にも努めていきたい。

エ　さらに指導と評価の一体化を図ることができるよう、達成基準の見直しやチェックリストの改良などに努めていきたい。

・教科担任制による授業
ア　発展的な学習の内容に取り組ませたい児童の中には、自分の学習経験をもとに抽象的に考えるにとどまり、多様な情報を取り入れて解釈したり考えたりしない児童が見られたため、支援の在り方を工夫していかなければならない。
イ　教科の系統性や、基礎・基本をさらに細かく洗い出し、身に付けさせなければならないことは確実に身に付けることができるよう指導計画・指導過程の見直しを図っていく必要がある。
ウ　さらなる教材の開発にも努めていきたい。
エ　児童の個性やよさをさらに把握できるよう多面的な評価についての研究も進めていきたい。

Ⅳ　学力等把握のための学校としての取組

○調査の目的
・学力テストを行うことで、児童の学力の実態を客観的に把握する。
・学力テストの結果を前年度と比較することにより研究の成果と課題を明らかにする。

○実施内容
・年１回実施する。
・１～３年生：国語・算数
・４～６年生：国語・算数・社会・理科

○実施時期
・２月中旬

Ⅴ　フロンティアスクールとしての成果の普及について

○平成１５年１１月１１日（火）研究公開開催

○公開内容
・１・２年生：少人数学級における算数科の授業公開
・３年生：学級内Ｔ．Ｔによる算数科の授業及び学級担任単独での算数科の授業
・４年生：教科担任制（社会科・理科・音楽科）の授業公開
・５年生：少人数グループ編成による算数科の授業公開
・６年生：教科担任制（社会科・理科・体育科）の授業公開
・少人数学級分科会・少人数指導分科会・教科担任制分科会の開催

○研究公開に合わせて、「研究公開要項」を作成し、その中で今年度取り組んできた研究及び授業実践内容を具体的に記述し成果の普及に努めた。

○フロンティアティーチャーとして、基礎学力向上推進研究協議会及び基礎学力向上推進会議において、研究の成果を報告する。また、隣接小・中学校で構成する小中連携推進協議会において、研究の成果を中学校の先生方と協議する予定。

○普及の成果として、教科担任制の一部導入を行う学校があったり、本校の作成している達成基準などが他校の参考になったりしている事例が見られる。

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　□１５年度からの新規校　☑１４年度からの継続校

【学校規模】　□６学級以下　□７～１２学級
□１３～１８学級　□１９～２４学級
☑２５学級以上

【指導体制】　☑少人数指導　☑Ｔ．Ｔによる指導
☑一部教科担任制　□その他

【研究教科】　□国語　☑社会　☑算数　☑理科
□生活　☑音楽　□図画工作　☑家庭
☑体育　□その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　□有　☑無